

## 「豊かな心を育むために」

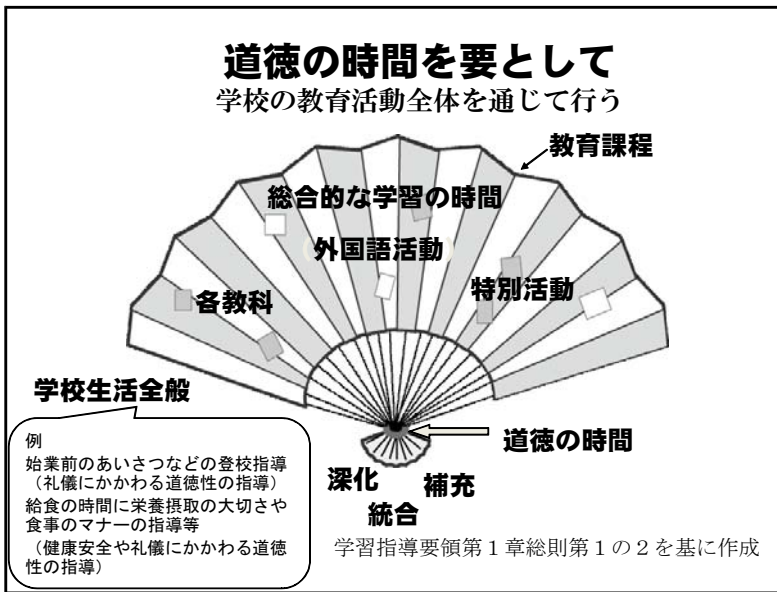
### 1 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育

#### (1) 道徳教育と道徳の時間

学校における道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。

小学校学習指導要領「第1章 総則」の「教育課程編成の一般方針」の2 前段

#### (2) 各教科等で行う道徳教育と道徳の時間



- 各教科等で行う道徳教育
  - ・具体的にどのように道徳性を養う指導を行うのか明確にする。
- 道徳の時間の指導
  - ・補充、深化、統合のいずれかを意図するには、これまでにどのような学びをしているのか、把握する。

### 2 各教科等における道徳教育

道徳の内容は、児童が自ら道徳性をはぐくむためのものであり、道徳の時間はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動においてもそれぞれの特質に応じた適切な指導を行うものとする。その際、児童自らが成長を実感でき、これからの課題や目標が見付けられるよう工夫する必要がある。

小学校学習指導要領「第3章 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」

#### (1) 道徳教育と各教科の目標、内容及び教材とのかかわり

道徳性の育成に関係の深い事柄が直接、間接に含まれている。

各教科の目標には、それぞれの特質を踏まえた態度や心情などを育てることが示されている。

赤堀 博行 「初等教育資料」平成22年7月号

**国語の例**

人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重

道徳の内容の2主として他の人とのかわりに関すること

**第1 目標**  
国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、**伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。**

我が国の伝統と文化を尊重することに深くつながる

国語が我が国の歴史の中ではぐくまれ、受け継がれてきたものであり、文化そのもの

内容には、各教科等の特質に応じた指導すべき内容が示されている。

**生活科の例**

**2内容**  
(7) 動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気づき、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。

3-(2)  
身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。

## (2) 学習活動や学習態度への配慮

〈例〉

話し合い活動を行うときに、「自分の考えをしっかりと発表する」「友達の意見に耳を傾ける」等、思いやりや協力的な雰囲気や人間関係をつくるなどの配慮をすることによって、学習態度が向上する。このことが礼儀や思いやり、役割遂行などの道徳性を育てることになる。

## (3) 教師の態度や行動による感化

〈例〉

- 授業中の教師の指示や発問などで用いる適切な言葉、児童への助言や呼名などの望ましい接し方
- 教師の授業に対する姿勢や児童への指導にかかわる熱意
- 児童と教師の望ましい人間関係

## 3 道徳教育及び道徳の時間の目標

道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの**道徳性**を養うこととする。

**道徳の時間**においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、**道徳的実践力**を育成するものとする。(小学校)

### (1) 道徳的価値の自覚を深めるとは

- 道徳的価値を理解すること。(価値理解・人間理解・他者理解)

**価値理解**…ねらいとする道徳的価値が大切であることを理解する。

**人間理解**…大切ではあるが、なかなか実現することができない人間の弱さなどを理解する。

**他者理解**…道徳的価値に関しては多様な感じ方、考え方があることを理解する。

- 自分とのかかわりで道徳的価値をとらえること。
  - ・道徳的価値についての理解(価値理解・人間理解・他者理解)を自分とのかかわりで行う。
  - ・自分とのかかわりで道徳的価値を理解することで、あわせて自己理解が深まる。
- 道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培うこと。
  - ・ねらいとした道徳的価値を視点に、現在の自分がどのようにあるのかを振り返る。

### (2) 自己の生き方についての考えを深める

- ・自己の中に形成された道徳的価値を基盤として、自己の生き方についての考えを深める。
- ・自己の生き方についての考えを深めることは、「道徳的価値の自覚を深める」学習を行う中で、同時に行われる。

### (3) 道徳的実践力とは

道徳的実践力とは、人間としてよりよく生きていく力であり、一人一人の児童が道徳的価値を自覚し、人間としての生き方について深く考え、将来出会うであろう様々な場面、状況においても、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような**内面的資質**を意味している。

- ・道徳的心情：道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情。
- ・道徳的判断力：人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力。
- ・道徳的実践意欲：道徳的実践意欲は、道徳的心情や道徳的判断力を基盤とし道徳的価値と態度  
実現しようとする意志の働きであり、道徳的態度は、それらに裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え。

#### 4 内容について

- A 主として自分自身に関すること
- B 主として人との関わりに関すること
- C 主として集団や社会との関わりに関すること
- D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

(小学校学習指導要領「第3章 特別の教科 道徳」平成27年3月一部改正 より)

#### 5 道徳の時間の指導

##### (1) 道徳の授業の学習指導過程

導入	ねらいとする道徳的価値への方向付け  ・これまでの経験を想起する。(体験活動などをつないでいくことで、展開の中でより自分自身の問題として考えを深めることができる。) ・問題場面を把握する。 ・主題に対する興味や関心を高める。 等
展開	資料を基にした、ねらいとする道徳的価値の追求 (前段)  ・主人公の行為とその動機、心情に迫る。 ・多様な価値観(感じ方・考え方)を引き出す。 ・自分なりの道徳的価値を深める。  ----- 自分自身の問題として考える：資料場面から、現実の自分に目を向ける。(後段)  ・今までの自分を振り返る。 ・人間としての在り方を吟味し、生き方を自覚する。
終末	ねらいとする道徳的価値の整理・まとめ ・教師の説話 ・心の中でそっと決意する。(余韻を残す) 等

##### (2) 指導方法の工夫

###### ① 導入の工夫

主題に対する児童の興味や関心を高め、学習への意欲を喚起して、児童一人一人の意識をねらいの根底にある道徳的価値の自覚に向けて動機付けを図る。

- 場面絵や写真、調査の結果などの提示
- 生活体験を想起させた発表
- アンケート調査の結果等の資料の提示
- 主題のねらいに関わる新聞記事、児童の作文、詩や短歌などの活用
- 地域の人材の活用
- 実験や観察など実物に触れる体験などを取り入れること

###### ② 展開の工夫

主題のねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な資料によって、児童一人一人がねらいの根底にある道徳的価値について自覚を深める。

###### ア 資料提示の工夫

- ・スライド、VTR、DVD等による提示
- ・読み物資料を繰り返し、あるいは部分的に見せたり聞かせたりする提示
- ・紙芝居のような提示
- ・影絵や人形、ペープサートなどを生かした劇のような提示

## イ 発問の工夫

※児童の実態と資料の特質を押さえた発問構成の工夫や資料に描かれた道徳的価値を自分の問題として受け止め、深く自己を見つめることができるようにする。

- ・ 中心発問：一つ  
(価値を把握させるための発問。)
- ・ 基本発問：二つぐらい  
(価値を追求する発問。中心発問の話合いがより効果的になるようにその前後に設定する。)
- ・ 補助発問：ゆさぶり、切り返しの発問  
(児童の考え方を広めたり、視点の転換や条件付けをしたりする。)

### ゆさぶり、切り返しの発問(例)

- 根拠を問う ・ どうしてそう思ったのか？ ・ なぜそう考えたのか？
- 考えを整理する ・ こういうことかな？
- 考えを深める ・ 詳しく話してみよう ・ 例えば？ ・ 言い換えると？ ・ どんなこと？
- 意図的にゆさぶる ・ そうか？ ・ でも、～じゃないのか？
- 考えを広げる ・ ～さんは～と言ってるが、みんなはどう思うか？ ・ それだけかな？  
・ ～のことをもう一度考えてみよう。

## ウ 話合いの工夫

- ・ 座席の配置の工夫 (コの字、円形など)
- ・ グループやペアによる話合いの場の工夫
- ・ 名札や意思表示カードの活用、座席の移動などによる一人一人の立場を明確にした話合いの工夫

## エ 表現活動の工夫

※表現活動を通して自分自身の問題として深くかかわり、ねらいの根底にある道徳的価値についての共感的な理解を深め、主体的に道徳的実践力を身に付ける。

- ・ 動作化…登場人物の動作を模倣し、反復することで登場人物の感じ方、考え方などを自分との関わりで考える。
- ・ 劇化…資料の内容や考えさせたい場面、状況を演じることで道徳的価値を理解させたり、考えさせたりする。
- ・ 役割演技…特定の場面や状況における登場人物になり切って即興的に自由に演じ道徳的価値を共感的に体験させる。

## オ 板書を生かす工夫

- ・ 思考の流れや順序を示した板書
- ・ 構造的に示した板書
- ・ 中心部分を浮き立たせた板書

## ③ 終末の工夫

ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり温めたりして、今後の発展につなぐ。

- 児童の感想の発表や書く活動
- 教師の説話

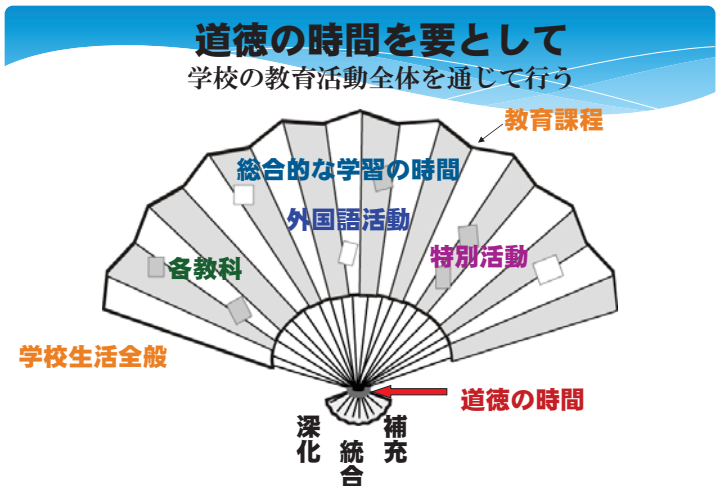
## 6 「特別の教科 道徳」の指導に当たっての配慮事項等

- ・ 問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な活動等を取り入れるとともに、多様な実践活動や体験活動を生かすなど指導方法を工夫する。
- ・ 情報モラルに関する指導を充実する。
- ・ 社会の持続可能な発展などの課題に留意する。
- ・ 科学技術の発展と生命倫理との関係などの課題に留意する。(中学校)

# 豊かな心を育むために



茨城県教育研修センター  
教職教育課



## 「豊かな心」

どんな教育活動で、育んでいきますか。



- ・学校の教育活動全体
- ・道徳の時間

## 各教科等における道徳教育

- ①道徳教育と各教科の目標、内容及び教材とのかかわり
- ②学習活動や学習態度への配慮
- ③教師の態度や行動による感化

内容には、各教科等の特質に応じた指導すべき内容が示されている。

### 生活科の例

#### 2内容

(7) 動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気づき、**生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。**

3 - (2)  
身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。

## 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育



# 「道徳教育及び 道徳の時間の目標」

## 目標

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。



道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成するものとする。

## 目標

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。



道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。

### 道徳的価値の自覚を深めるとは

- ① 道徳的価値を理解する
- ② 自分とのかかわりで道徳的価値をとらえる
- ③ 道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培う

解説P30

## 第3章 特別の教科道徳

### ① 道徳的価値を理解するとは

- ・価値理解・・・道徳的価値が大切であることを理解する
- ・人間理解・・・人間の弱さを理解する
- ・他者理解・・・価値に関する多様な感じ方、考え方があつて理解する。

## 内容

- A 主として自分自身に関すること
- B 主として人との関わりに関すること
- C 主として集団や社会との関わりに関すること
- D 主として**生命や自然**、崇高なものとの関わりに関すること

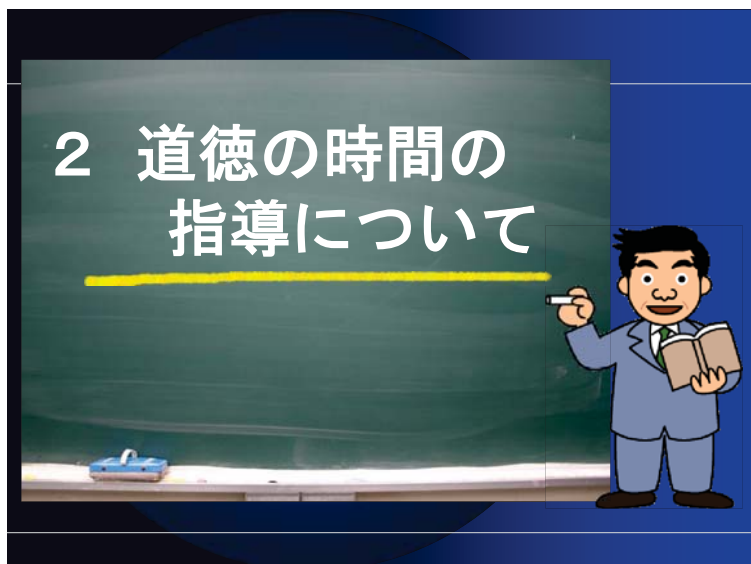
## 導入の工夫

場面絵や写真、映像など、視覚的な印象付け

録音した音、音楽CDなど、聴覚的な印象付け

実物、小道具など

これまでの**経験**を想起する。



## 展開の工夫

道徳的価値について  
自覚を深める

## 導入の工夫

ねらいとする道徳的価値  
への動機付けを図る

## ア 資料提示の工夫

- ・ スライド、VTR、DVD等としての提示
- ・ **読み物資料**を繰り返す、あるいは**部分的に見せたり聞かせたり**する提示
- ・ **紙芝居**のような提示
- ・ **影絵や人形**、**ペープサート**などを生かした劇形式の提示

## イ 発問の工夫

- ・ **中心発問 一つ**  
(価値を把握させるための発問。)
- ・ **基本発問 二つぐらい**  
(価値を追求する発問。中心発問での話合いがより効果的になるようにその前後に設定する。)
- ・ **補助発問 〈ゆさぶり, 切り返しの発問〉**  
(生徒の考え方を広めたり, 視点の転換や条件付けをしたりする。)

補助発問について **ゆさぶり, 切り返しの発問(例)**

根拠を問う

○どうしてそう思ったの? なぜそう考えたの?

整理する

○~ということかな?

深める

○もう少し教えて ○詳しく話してみて

○例えば? ○どんな?

ゆさぶる

○そうかな? ○でも~じゃないの?

広げる

○~さんは~と言ってるよ。みんなはどう思う?

○それだけかな? ○他にもないかな?

## ウ 話合いの工夫

- ・ 座席の配置
- ・ グループやペアによる話合い
- ・ 名札の活用, 座席の移動などによる一人一人の立場を明確にした話合い

意見を出し合う, 比較するなどの目的に応じて効果的に話合いが行われるようにする。

## オ 板書を生かす工夫

- ・ 思考の流れや順序を示した板書
- ・ 構造的に示した板書
- ・ 中心部分を浮き立たせた板書

板書は児童生徒にとって思考を深める重要な手掛かりとなる

## 終末の工夫

**道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり温めたりして、今後の発展につなぐ。**